

入学してみたい世界のユニークな学校ランキング

1位「魔法使い養成学校」

学校で学ぶことといえば、語学や計算などいろいろありますが、世界には意外な分野について学べるユニークな学校がたくさんあります。そこで今回は、入学してみたい、世界のユニークな学校について、読者617名に聞きました。

- 1位 **ヘクセン・シュレー(オーストリア)**魔法使い養成学校。予言・タロット占いなどを学ぶ 29.7%
- 2位 **グレー魔法学校(アメリカ)**世界で唯一の魔術学校。校長はヤギをユニコーンに変えたこともあるとか 18.1%
- 3位 **クラス・アフロート(カナダ)**船に乗って世界中を回りながら学習する進学校 18.0%
- 4位 **探偵養成専門学校(日本)**その名の通り、探偵を養成する学校 17.7%
- 5位 **東京すしアカデミー(日本)**本格的なすし職人を養成する 11.3%

■ヘクセン・シュレー(オーストリア)

- ・「神秘的なものを専門的に学ぶことで精神的にも成長できそう」(26歳男性/金融・証券/専門職)
- ・「ハリーポッターの世界観を感じられそうだから」(27歳女性/生保・損保/販売職・サービス系)
- ・「占いが好きなので、時間とお金があれば習に行きたいです」(30歳女性/商社・卸/事務系専門職)

■グレー魔法学校(アメリカ)

- ・「ファンタジー世界のような夢があって面白そうなので」(31歳男性/機械・精密機器/技術職)
- ・「教えられたら魔術が使えるものなのか気になる」(29歳女性/電機/秘書・アシスタント職)
- ・「魔法を使えるようになったら楽しそうだから」(35歳女性/団体・公益法人・官公庁/秘書・アシスタント職)

■クラス・アフロート(カナダ)

- ・「世界を回りながら勉強できるなんて夢のよう」(24歳男性/運輸・倉庫/営業職)
- ・「世界一周旅行が夢だったりするので、とっても魅力的です」(24歳女性/学校・教育関連/事務系専門職)
- ・「世界中の文化を体感できそうだから」(30歳男性/小売店/事務系専門職)

■探偵養成専門学校(日本)

- ・「どんな勉強をするのかすごく興味がある」(36歳男性/通信/技術職)
- ・「一度探偵チックなことしてみたいと思う。浮気調査とか尾行とかすごく興味がある」(29歳女性/医薬品・化粧品/事務系専門職)
- ・「推理モノが好きで、探偵にあこがれているため」(27歳女性/団体・公益法人・官公庁/事務系専門職)

■東京すしアカデミー(日本)

- ・「寿司が握れると、世界各地で食いぶちを稼ぐのに困らないと聞いたので」(25歳男性/マスコミ・広告/クリエイティブ職)
- ・「寿司と一言でいっても奥が深いと思うので、こういうユニークな学校はもっと増えたらいいのになと思います」(24歳女性/機械・精密機器/事務系専門職)
- ・「多様化しているお寿司だけど、原点となる部分を学びたいから」(27歳女性/学校・教育関連/クリエイティブ職)

■番外編:技術や知識を習得できる本格的な学校も注目

- ・気象大学校(日本)気象庁幹部候補生養成のための機関「実際にしっかりとした能力が得られると思うから」(51歳男性/情報・IT/技術職)
- ・ハンバーガー大学(アメリカ、日本など)マクドナルドの社内人材教育施設「ハンバーガー大好き! いろんなアイデアを出してみたい!」(29歳女性/情報・IT/秘書・アシスタント職)
- ・スペイン乗馬学校(オーストリア)古典馬術の最高技術を保存。馬術ショーがホーフブルク宮殿で行われる「リッチな気分になれそうだから。乗馬ができるとかっこいいし」(29歳女性/金融・証券/秘書・アシスタント職)

●総評

1位は「ヘクセン・シュレー(オーストリア)」、2位は「グレー魔法学校(アメリカ)」と、魔法学校が上位にランクインしました。どんな勉強をするのか、どんな魔術が習得できるのか興味津々。チャンスがあれば、授業風景をのぞいてみたいですね。

3位は「クラス・アフロート(カナダ)」でした。世界中を回るということで、旅行好きな人からの人気を集めています。ただ、旅行気分ではなく、しっかり勉強に励む進学校ですから、入学するときには強い意思が必要となりそうです。

4位「探偵養成専門学校」、5位「東京すしアカデミー」と日本の学校がランクイン。探偵養成専門学校は、尾行や張り込み、心理学など幅広く学べるそう。東京すしアカデミーは、寿司の作り方を基礎からじっくり学べるようです。

東京すしアカデミーは1日体験講座もあるので、興味がある人はトライしてみるといいかも。

そのほかにも、「気象大学校(日本)」「ハンバーガー大学(アメリカ、日本など)」「スペイン乗馬学校(オーストリア)」など、興味深い学校がズラリ。大人になると学校に行くのはなかなか難しいですが、想像すると楽しい学園生活が思い浮かんでワクワクしちゃいますね。 マイナウーマンより

『夏休みの生活習慣が子どもの肥満、に拍車をかける?』

行楽地に子どもたちの賑やかな声があふれる、夏本番。開放感いっぱいの夏休みは楽しいものだが、生活習慣が乱れやすく、子どもの体調管理に頭を悩ませる親も多いことだろう。

一昔前は、夏休みの体調不良といえば「夏痩せ」のイメージがあった。しかし、子どもの食生活や住環境が変化し、活動量が減った現代はむしろ、「夏太り」に警戒しなければいけないらしい。

今年7月、アメリカの学校保健専門誌『ジャーナル・オブ・スクールヘルス』において、コロンビア大学の研究グループが報告を行っている。それによると、夏休みなどの長期休暇中は、子どもの生活習慣に肥満につながりやすい行動が増える。そして、その現象は、どんな経済状態の家庭でも同じように起きているという。

夏休みは野菜が減って砂糖が増える

経済状態による成績の差は夏休みに広がる傾向があるとされてきた。そこで研究グループは、夏休みなどの長期休暇中に、子どもの肥満につながるリスク要因の差も、経済状態によって広がっているかを調べることにした。

使用したのはアメリカの全国健康栄養調査6年分(2003~2008年)。日本でいうところの、小学校1年生~高校3年生に当たる6769人のデータだ。食習慣は1日当たりの総摂取エネルギー、野菜のカップ数、糖分のティースプーン数を分析。それ以外の生活習慣ではテレビの視聴時間、中程度~強度の運動、カロリー消費について検討した。そしてそれらを、通常のと休期中について比較。さらに、経済状態の違いでも比較を行った。

その結果、夏休みは、子どもの野菜の摂取量が通常のと休期中より1日あたり0.2カップ減り、糖分は1日あたり2.1ティースプーン増えた。また、テレビの視聴時間も1日あたり18分長くなった。一方、中程度~強度の運動量は1日あたり4.6分増えていた。

もともとこうした肥満につながる行動は、高所得層の家庭の子どもより低所得層の子どもの方に多く見られる。だが、今回の研究では、夏休み期間に所得による差が広がることはなかった。つまり、夏休みの生活習慣が「太りやすいもの、にシフトしやすいのは、どの家庭でもいえるということだ。

肥満児は夏休みに作られる?

こうしてみると、子どもにとっての学校環境は、健康的な食事と活動に重要な役割を果たしていることがわかる。夏休みへの健康的な移行を促すためには、何らかのリーダーシップが必要と研究グループは指摘。「1年間を通して、学校をベースにした肥満予防の取り組みが必要」と結論づけた。



もちろんこれは日本も同じだ。特に今年のような猛暑が続くと、エアコンが効いた屋内で一日体を動かさず過ごし、おやつを食べ過ぎる子は増える。近年は、水分補給のつもりでイオン飲料を飲み過ぎ、知らないうちに糖分を過剰摂取するケースも多い。ある小児科医は、「肥満児は夏休みにつくられる、と言っても過言ではない」と指摘している。

夏休み太りを防ぐにはまず、生活リズムを崩さない。食事が不規則になると栄養バランスがとりにくくなる。また、「野菜を積極的に摂る、おやつの時間を決める、甘い飲料は飲み過ぎない」ことも大切だ。夏休み期間中は、子どもの食事が乱れていないか、いつも以上に注意したい。 Healthpressより

この過程で見ると、日本の子供たちの夏休みも、油断すると同じことが言えると思う。(もっとも、中学生で休み中はずっと部活...と言う生徒は別だろうけど)お母さん、肥満児は夏休みで作られるそうですから、くれぐれもご注意を!